

【2025年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査】 キャリア形成支援に係る取り組みの4類型の認知・参加状況

キャリア形成支援に係る取り組みが4類型化されたことを「知っている」学生は43.7%
5日以上開催のプログラムに18.4%の学生が参加。そのうち38.2%がタイプ3※に参加と回答

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、「2025年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査」を実施しました。2023年9月時点の調査結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

タイプ3のインターンシップ参加学生からは、職場でのリアルな情報から適性を知ることができたとの声



所長 栗田 貴祥

今回の調査では2025年卒学生のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加状況について調査しました。2022年6月に政府による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（三省合意）が改正され、インターンシップをはじめとしたキャリア形成支援に係る取り組みが4つに類型化されました。4つに類型化されたことを知っているかどうか学生に尋ねたところ、「知っている」と回答した割合は43.7%でした。また、2025年

卒学生の就職活動から、一定の基準を満たすインターンシップ（タイプ3）で得た学生の情報を、企業が広報活動や採用選考活動に使用できるようになったことについては、44.3%の学生が「知っている」と回答しました。5日以上インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した経験のある学生に、インターンシップ（タイプ3）への参加状況を聞くと、38.2%が参加経験がありました。一方、42.5%が「分からない」と回答しました。参加したインターンシップ（タイプ3）の内容では、商品販売や開発設計など、具体的な実務に関するコメントが目立ちました。また、参加して良かった点としては、大学の研究やアルバイトとの違いへの気付きや、実際の会社の雰囲気や仕事内容など職場のリアルな情報を得ることで、適性を知ることができたという声が寄せられました。タイプ3のインターンシップは、実際に企業で働くイメージをよりリアルに感じられる機会となります。まだ学生全体への周知が十分に進んでいるとは言えない様子ですが、今後さらに認知度が上がり、より良い進路選択に資する機会になることを期待します。

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

■タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況
（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・5日以上プログラム参加経験者／単一回答）



調査概要

■2025年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査

調査目的：2025年卒学生のインターンシップ・就職活動準備の現状を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：『リクナビ2025』（※）会員より、2025年3月卒業予定の大学生および大学院生

調査期間：2023年9月20日～25日

回答者数：大学生 831人 大学院生 305人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト

<https://job.rikunabi.com/2025/>

◀調査結果を見る際の注意点▶

- ・%を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- ・データは無回答サンプルを除いて集計している
- ・2025年卒業を「2025年卒」と表記

◀調査の集計について▶

・「2023年9月時点での進路の志望状況」で①～⑥のいずれかを選択した回答者を「就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む」として集計する

■2023年9月時点での進路の志望状況（大学生／複数回答）

	n数	① まだ 志望進路を 決めていない	② 民間企業に 就職したい	③ 公務員として 就職したい	④ 教員として 就職したい	⑤ 医師・ 歯科医師・ 看護師として 就職したい	⑥ 公務員・ 教員・医師・ 歯科医師・ 看護師以外で 民間企業では ない組織・団体 に就職したい	⑦ 起業したい	⑧ 大学院等へ 進学したい	⑨ 留学したい	⑩ 留年するので 卒業しない	⑪ その他
卒業後の 志望進路	831	14.0%	75.4%	16.5%	4.0%	0.5%	3.1%	1.3%	8.9%	1.4%	0.4%	0.2%

■掲載内容

- P.4 キャリア形成支援に係る取り組みの4類型・インターンシップ（タイプ3）の認知
- P.5 タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加希望
- P.6 タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況
- P.7 参加したインターンシップ（タイプ3）のプログラム内容
- P.8 インターンシップ（タイプ3）に参加して良かったこと
- P.9 参考：キャリア形成支援に係る取り組みの4類型・タイプ3の認知、タイプ3の参加希望（大学院生）
- P.10 参考：タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況（大学院生）

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

(参考) キャリア形成支援に係る取り組みの4類型

類型	「インターンシップ」とは称さない		「インターンシップ」と称して実施	
	タイプ 1 オープン・カンパニー	タイプ 2 キャリア教育	タイプ 3 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ ※1	タイプ 4 (試行) 高度専門型インターンシップ
目的	個社や業界に関する 情報提供・PR	働くことへの理解を深めるための教育	就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得
対象	年次不問	年次不問	学部3・4年、修士1・2年、博士課程学生 (大学正課を除く)	修士課程、博士課程学生 ※詳細は下段の「主に想定されるもの」参照
主に想定されるもの	企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会	・大学等が主導する授業・産学協働プログラム(正課・正課外を問わない) ・企業がCSRとして実施するプログラム	企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラム	・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中) ・ジョブ型研究インターンシップ(自然科学分野の博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中)
就業体験	なし	任意	必須 ①実施期間の半分以上の日数を職場での就業体験に充てる(就業体験要件) ②職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う(指導要件)	必須
所要日数	超短期(単日)	授業・プログラムによって異なる	③汎用的能力活用型は5日間以上。専門活用型は2週間以上(実施期間要件)	・ジョブ型研究インターンシップ:長期(2カ月以上) ・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称):検討中
実施時期	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	④学業との両立の観点から、長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)(実施時期要件)。ただし、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない	—
取得した学生情報の採用活動への活用	不可	不可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可

※1 タイプ3において、表中の①～④、並びに⑤情報開示要件(※2)の5つを満たしている場合、「インターンシップ」と称し、「産学協議会基準準拠マーク」を募集要項等に記載することができる。

※2 情報開示要件として、次の①～⑨に関する情報が募集要項などに記載されていることが求められる。

①プログラムの趣旨(目的)／②実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給/有給等／③就業体験の内容(受け入れ職場に関する情報を含む)／④就業体験を行う際に必要な(求められる)能力／⑤インターンシップにおけるフィードバック／⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨(活用内容の記載は任意)／⑦当該年度のインターンシップ実施計画(時期・回数・規模等)／⑧インターンシップ実施に係る実績概要(過去2～3年程度)／⑨採用選考活動等の実績概要 ※企業による公表のみ

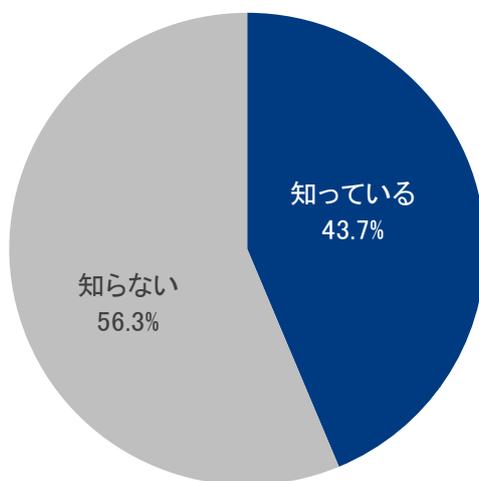
※産学協議会作成「何が変わるの? これからのインターンシップ」(https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039_leaflet2.pdf) P7～8などを基に就職みらい研究所にて作成

※出所 『就職白書2023』

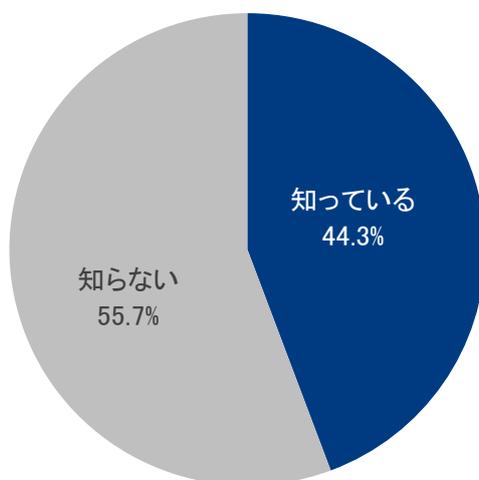
インターンシップ等が4類型化されたことを「知っている」学生は43.7%

- ・2023年度からインターンシップ等の考え方が大きく変わり、4つに類型化されたことを知っているかどうか、4類型を示した上で尋ねたところ、「知っている」と回答した学生の割合は43.7%だった。
- ・2025年卒学生の就職活動から、一定の基準を満たすインターンシップ（タイプ3）で得た学生情報を、企業が広報活動や採用選考活動に使用できるようになったことについて知っているかどうか、一定の基準を示した上で尋ねたところ、「知っている」と回答した学生の割合は44.3%だった。

■インターンシップ等のキャリア形成支援に係る取り組みの4類型の認知
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/単一回答)



■インターンシップ（タイプ3）の詳細に関する認知
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/単一回答)



※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

タイプ3の基準を満たしたインターンシップに参加したいと回答した学生の割合は71.7%

・4類型やタイプ3の詳細について「知らない」と回答した学生も含め、タイプ3の基準と、参加学生の情報を企業が採用選考に使用できるということを示した上で、タイプ3の基準を満たしたインターンシップに参加したいかどうかについて尋ねたところ、「参加したい」「どちらかというに参加したい」と回答した学生の割合は、71.7%だった。

■タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加希望
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答)

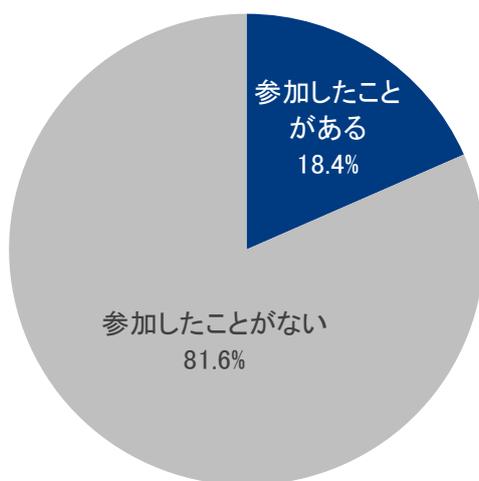


※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

5日以上プログラム参加経験者のうち、38.2%の学生がタイプ3のインターンシップに参加

・5日以上インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した経験のある学生に、タイプ3の基準を示した上で、タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況を、聞いたところ、38.2%が参加経験があった。一方、42.5%が「分からない」と回答した。

■5日以上インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの参加経験
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/単一回答)



■タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況 (再掲)
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・5日以上プログラム参加経験者/単一回答)

					(%)	
1社	2社	3社以上	参加したことがない	分からない	参加・計	
33.0	3.9	1.3	19.3	42.5	38.2	

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

実務経験を通し、社員から具体的なフィードバックを得られたという声も

・インターンシップ（タイプ3）に参加した学生に、プログラム内容について聴取すると、商品販売や開発設計など具体的な実務に関するコメントが挙がった。またプログラムの中で、社員からの具体的なアドバイスやフィードバックによって、業務に対する自身の適性を試せたという声も挙がった。

■参加したインターンシップ（タイプ3）のプログラム内容
（就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ（タイプ3）参加経験者／自由回答）

コメント	大学種別	文理・性別
実際に、発案、設計、開発を行った。	大学生	理系男性
企業から与えられたソースコードをひたすらに改良していくプログラミング実習でした。実習担当の社員様はあくまで助言程度の補助を行い、良く言えば自主的な取り組みを促して、悪く言えばやや放置気味であったと記憶しています。	大学生	理系女性
実際に業務を行い、アドバイスしてもらいながら適性を試すことができる。	大学生	文系男性
学校事務での仕事で、主に文化祭準備や掲示板作成、データ入力、生徒対応などを行った。	大学生	文系女性
商品の販売を行ったり、フィードバックを毎日受けたりした。修了式ではインターンシップのまとめとして発表を行った。	大学生	文系女性
銀行のRMとして実際の大企業への提案を行う。	大学生	文系女性
3週間のインターンシップ期間のほとんどについて実務を経験させていただいた。	大学院生	理系男性
5日間のうち、初日はオリエンテーションおよび工場見学、2～4日目に就業体験、5日目に成果発表を行いました。	大学院生	理系男性
実際にリリースされているアプリの開発タスクの1つを割り振ってもらい、メンターの指導の下、実装やレビューなど一通りの実務を実施した。	大学院生	理系男性
2週間のプログラム。指定の部署に配属され、開発設計業務など実際の業務を体験する。	大学院生	理系女性
2部署の1年目の実務内容に触れる。	大学院生	理系女性

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

良かったことは、職場のリアルな情報を得ることで、適性を知ることができた等

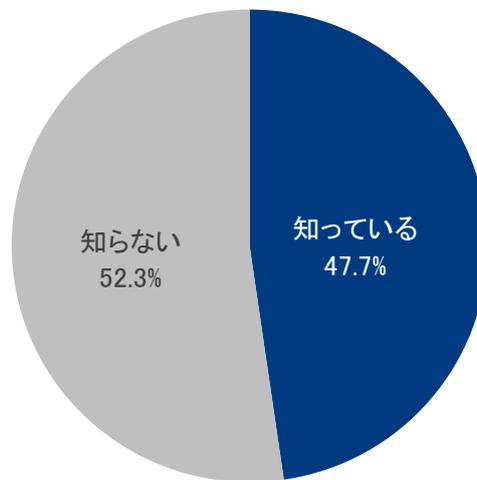
- ・ 学生にインターンシップ（タイプ3）に参加して良かったことについて聴取した。
- ・ 実際の会社の雰囲気や仕事内容など職場のリアルな情報を得ることで、大学の研究やアルバイトとの違いに気付き、自身の適性を知ることができたという声が寄せられた。

■ インターンシップ（タイプ3）に参加して良かったこと
 （就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・インターンシップ（タイプ3）参加経験者／自由回答）

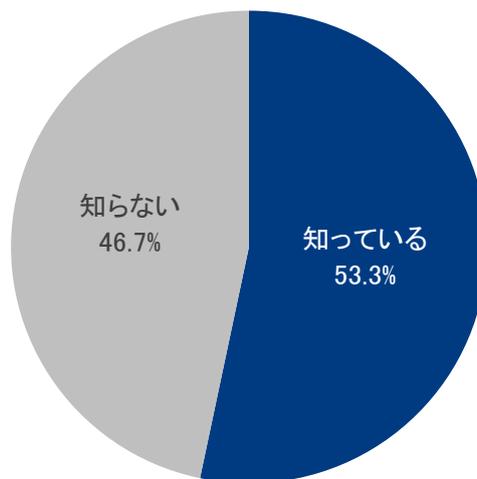
コメント	大学種別	文理・性別
実際の会社の雰囲気・職場の雰囲気を知ることができた。入社後のキャリアについて知ることができた。	大学生	理系男性
自分の学んでいることが社会貢献に活かされている現場を見ることができた点。	大学生	理系女性
インターンシップ生全員がそれぞれの課題に取り組む中で、近い空間での実習だったことから教え合い励まし合い、チーム開発の片鱗を体験できたような気分になりました。	大学生	理系女性
1番深く企業を理解できた。同じ考えを持つ社員と会うことができた。	大学生	文系男性
実際に社会に出て働くということについて、そしてビジネスの世界において必要とされる能力や考え方について、多くの貴重な学びを得ることができた。	大学生	文系女性
考える時間が十分に用意されており、実際の業務に近い頭脳労働を行うことができる、仕事のイメージがついたこと。	大学生	文系女性
5日間あったため、業務を体験することも多く、アルバイトとの違いを感じることもできた。	大学生	文系女性
具体的な仕事内容を知ることができ、大学の研究との考え方の違い等に気付くことができた点が良かったです。	大学院生	理系男性
自身のスキルで足りていない部分を見つけられたことと、企業への理解を深められたこと。	大学院生	理系男性
自分が長時間座って働き続けることが苦手であることに気付けた。	大学院生	理系女性
職場の雰囲気が肌で感じられる。5日間を通して、社会人と話す時間が多くあり、業務に関することや就職活動についてなど、気軽に様々なお話ができ、距離が近く感じたこと。	大学院生	文系女性

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

■ インターンシップ等のキャリア形成支援に係る取り組みの4類型の認知
（大学院生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答）



■ インターンシップ（タイプ3）の詳細に関する認知
（大学院生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答）



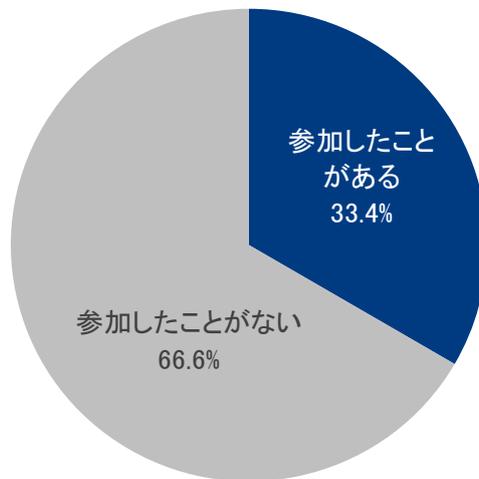
■ タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加希望
（大学院生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答）

					（%）	
参加したい	どちらかという と参加したい	どちらでもない	どちらかという と参加したくない	参加したくない	参加したい ・計	参加したく ない・計
46.7			34.8	14.6	3.3	0.7
					81.5	4.0

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照

参考：タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況（大学院生）

■5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの参加経験
（大学院生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答）



■タイプ3の基準を満たしたインターンシップへの参加状況
（大学院生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・5日以上プログラム参加経験者／単一回答）

					(%)	
1社	2社	3社以上	参加したことが ない	分からない		参加・計
	37.6	14.9	3.0	7.9	36.6	55.4

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.3参照